



守り ☆ 育て ☆ 創る

～新たな文化芸術を～



文化芸術について語る高嶋館長

新春 対談

新しい年を迎え、昨年4月に文化の家館長に就任された高嶋隆明さんと文化の家フレンズの水野美々子会長が対談しました。

話題は文化芸術活動の拠点としての文化の家とフレンズの、現在とこれからの抱負、平成29年に予定されている文化の家改修工事についてなどです。

文化の家は平成10年から文化マスタープランにのっとり文化芸術の質の向上に力を入れています。私が就任してからも北海道や沖縄、大分など全国各地から視察がありますが、その時話すのはまずひとつはプランに基づいて事業展開していること、

水野 明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。
高嶋 おめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
水野 始めに文化の家館長に就任されまもなく一年になりますが、文化の家の印象や感想などを聞かせていただけますか。
高嶋 私は建設部で長く仕事をしていた道路や施設建設などのハード面からまちづくりをしてきましたが、平成25年7月から文化部次長に就任して



フレンズについて語る水野会長

はじめて社会的な環境コミュニケーションの活動にかかわるようになりました。
文化の家は平成10年から文化マスタープランにのっとり文化芸術の質の向上に力を入れています。私が就任してからも北海道や沖縄、大分など全国各地から視察がありますが、その時話すのはまずひとつはプランに基づいて事業展開していること、

水野 フレンズの活動についてはいかがですか。
高嶋 先にも述べたように全国から視察があつて、フレンズの組織や活動を紹介すると皆さん驚かれます。フレンズさんの存在というのは文化の家の職員にとっても大きなことで、

身近な生活の中に本物の芸術を

もうひとつはフレンズという組織の存在についてです。文化の家と両輪になって進んでいると話すとき驚かれます。
文化芸術の拠点として良いところは残し、もっと多くの市民の人たちと一緒に質の向上に取り組んで、それを守り育てながら創っていくことが大事だと考えています。
水野 良いところを残しながら会館の威厳を保ちつつ多くの人が集まる場所でありたいですね。
高嶋 これから30年後50年後の文化芸術の活動はどうなっていくのかと考えることがあります。
水野 日常生活とのかかわりが切り離せないと思うのですが。